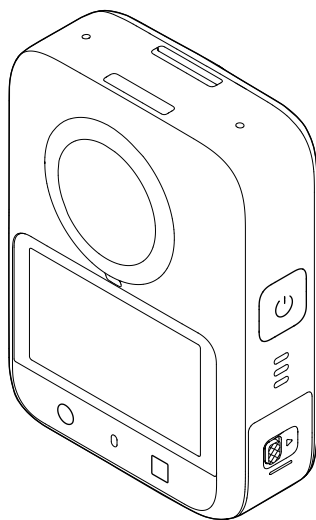


# **dji** OSMO 360

## ユーザーマニュアル

v1.0 2025.07





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

### 🔍 キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探することができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

### 👉 任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

### 🖨️ 本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用方法

## 凡例

△重要

※ヒントとコツ

📖参考

## ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

## チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://www.dji.com/360/video>

# 目次

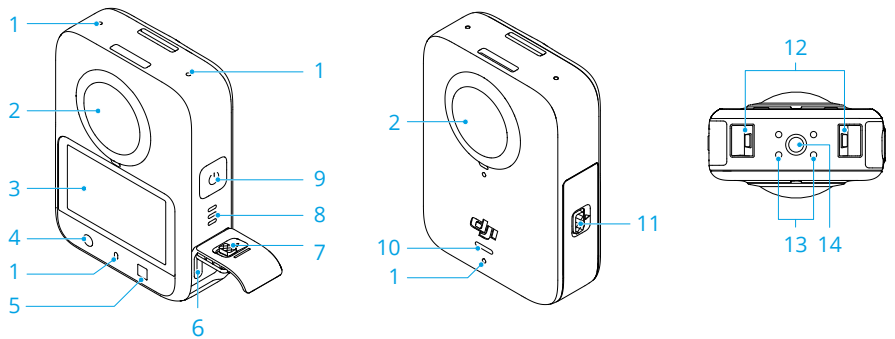
<b>本マニュアルの使用方法</b>	<b>3</b>
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
<b>1 製品の特徴</b>	<b>5</b>
1.1 Osmo 360	6
1.2 バッテリーケース	7
1.3 アダプター マウントおよびセルフースティック	8
<b>2 準備</b>	<b>9</b>
2.1 バッテリーの取り付けと充電	9
2.2 アクティベーション	9
2.3 ファームウェアの更新	10
<b>3 本製品の使用</b>	<b>12</b>
3.1 ボタン機能	12
3.2 タッチスクリーンの操作	13
撮影モードの設定	13
ビューノレンズ切り替え	14
撮影パラメーターの設定	14
コントロールセンター	16
3.3 セルフースティックの使用	18
3.4 エクスポートと共有	19
ファイル転送	19
パノラマ動画の編集	19
3.5 使用上の注意	19
レンズ	19
バッテリー	20
水中での使用	20
クリーニング	21
<b>4 仕様</b>	<b>22</b>

# 1 製品の特徴

Osmo 360 アドベンチャーコンボには次のアクセサリーが含まれています。別売で購入することもできます。互換性のあるアクセサリーの完全なリストは[公式ストア](#)をご覧ください。

- Osmo Action 多機能バッテリーケース 2（以下「バッテリーケース」といいます）
- Osmo クイックリリース式調整型アダプターマウント（以下「アダプター マウント」といいます）
- Osmo 1.2 m インビジブル セルフィー スティック

# 1.1 Osmo 360

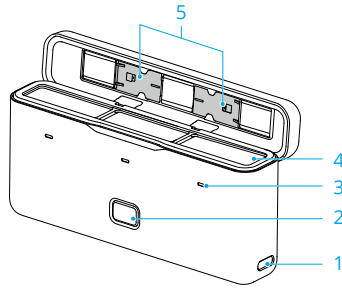


- 1. マイク
- 2. レンズ
- 3. タッチ画面
- 4. シャッター／録画ボタン
- 5. 機能ボタン
- 6. USB-C ポート
- 7. USB-C ポートカバー取り外しボタン
- 8. スピーカー
- 9. 電源／クイックスイッチボタン
- 10. ステータス LED

点滅パターン	説明
緑色点灯	撮影準備完了
一時的にオフになり、緑色継続	写真を撮影中
赤色点滅	動画またはカウントダウン写真を撮影中
赤色に 3 回素早く点滅	カメラの電源をオフにする、もしくはローバッテリー残量時にカメラの電源をオン
赤色と緑色に交互に点滅	ファームウェア更新中

- 11. バッテリー収納部カバー取り外しボタン
- 12. クイックリリース用取り付け穴
- 13. 充電接点
- 14. 1/4-20 UNC ポート

## 1.2 バッテリーケース



1. USB-C ポート
2. ステータスボタン
3. ステータス LED

ボタンを 1 回押すと、バッテリー残量を確認できます。

### バッテリー残量

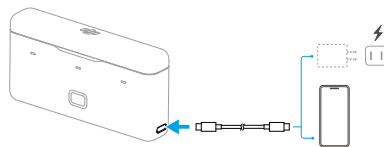
赤色点灯	0～20%
黄色点灯	20%～80%
緑色点灯	80%～100%

### 充電と放電ステータス

オフ	そのバッテリーポートにあるバッテリーの充電が完了。
順番に緑色点滅	バッテリーが一つも挿入されていない。
赤色点滅	そのバッテリーポートに挿入されているバッテリーが異常状態。

4. バッテリーポート
5. microSD カードスロット

💡 バッテリーを挿入した状態で、バッテリーケースはバッテリーやスマートフォンなどの外部デバイスを充電できます。



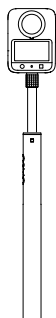
- バッテリーを充電する際は、PD（Power Delivery）または PPS（Programmable Power Supply）に対応した USB-C 充電器の使用をお勧めします。残量が一番高いバッテリーが最初に充電されます。

- 外部デバイスを充電する際、電力レベルが最も低いバッテリーが最初に放電されます。

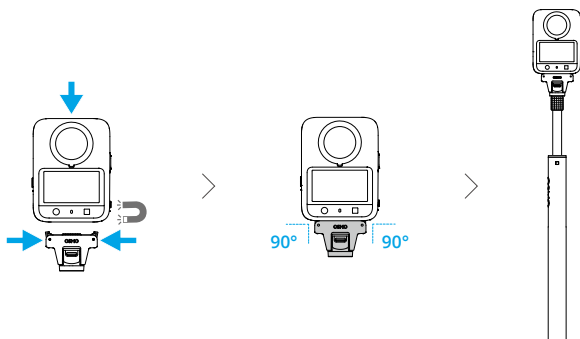
- ⚠
- 本バッテリーケースを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
  - バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。
  - 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
  - バッテリーケースは、防水ではありません。ケースを水に入れたり、液体をこぼしたりしないでください。

### 1.3 アダプター マウントおよびセルフースティック

セルフースティックをカメラ底部のネジ穴にねじ込みます。



または、カメラとセルフースティックを組み立てるためにアダプター マウントを使用します。

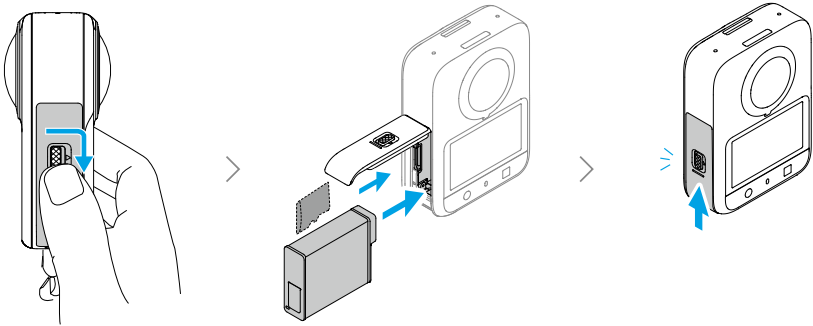




## 2 準備

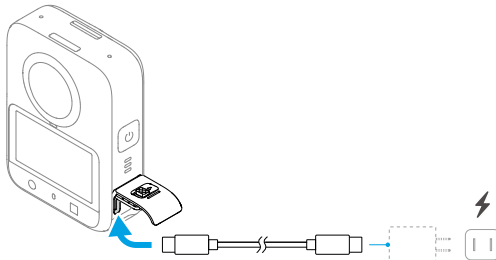
### 2.1 バッテリーの取り付けと充電

バッテリーを挿入し、カバーを完全に閉じます。



💡 カメラには使用可能なストレージが 105GB あり、ストレージ拡張のために microSD カードをサポートしています。推奨 microSD カードについては [仕様](#) を参照してください。

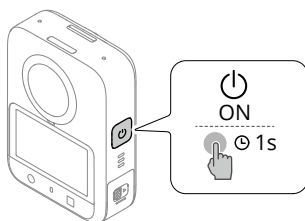
PD または PPS に対応した USB-C 充電器の使用をお勧めします。



### 2.2 アクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mimo を使ってカメラのアクティベーションを行ってください。

1. 電源ボタンを長押ししてカメラの電源を入れます。




2. 画面の QR コードをスキャンして DJI Mimo アプリをダウンロードします。
3. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
4. モバイル端末で DJI Mimo を起動して、カメラアイコンをタップしてカメラに接続し、手順に従ってカメラのアクティベーションを行います。

DJI Mimo アプリでカメラを使用すると、モバイル端末を使用して、現在のカメラビューをモニタリングしたり、カメラパラメーターを設定したり、カメラを制御したりできます。

-  • アプリがサポートする Android と iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、<https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-mimo> をご覧ください。
- アプリのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際のユーザー体験は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

 **DJI Mimo への接続時に問題が発生した場合には、次の手順に従ってください。**

1. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth の両方が有効になっていることを確認してください。
2. DJI Mimo アプリのファームウェアが最新バージョンであることを確認してください。
3. カメラのライブビューで、画面の上から下にスワイプし、 > 無線接続 > 接続をリセットをタップします。カメラのすべての接続と Wi-Fi パスワードがリセットされます。

## 2.3 ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Mimo にプロンプトが表示されます。プロンプトをタップし、画面上の指示に従って、ファームウェアを更新してください。

 **更新できない場合、次の手順に従って問題を解決してください。**

1. カメラと DJI Mimo を再起動します。
2. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
3. カメラを DJI Mimo に接続し、アップデートを再試行します。

更新に失敗したら、DJI サポートにご連絡ください。

---

## 3 本製品の使用

### 3.1 ボタン機能



#### 電源/クイックスイッチボタン

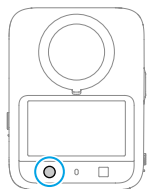
長押し：電源オン/オフ。

ライブビューで：クイックスイッチページに入るには1回押しします。

プリセット撮影モードを切り替えるには再度押しします。

- \* プリセットを変更するには、クイックスイッチページの右上隅の・・・をタップします。

他のページで：ライブビューに戻るには1回押しします。



#### シャッター/録画ボタン

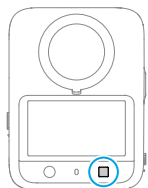
##### 送信機の電源をオンにすると

1 回押し：写真撮影、または動画撮影の開始/停止。

##### 電源オフ時

1 回押し：電源を入れて録画を開始します（スナップショット）。再度押しすると動画撮影を停止します。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。

- \* スナップショット機能は、撮影を開始する最速の方法で、アクションの瞬間を逃しません。デフォルトでは、スナップショットはパノラマモードの最後の使用時の撮影設定を適用します。変更するには、コントロールセンターに入り、**スナップショット**をタップします。



#### 機能ボタン

##### 送信機の電源をオンにすると

1 回押し：前方と後方のビュー（パノラマモード）/前方と後方のレンズ（シングルレンズモード）を切り替えます。

2 回押し：ビューを中心に戻します（パノラマモード）。

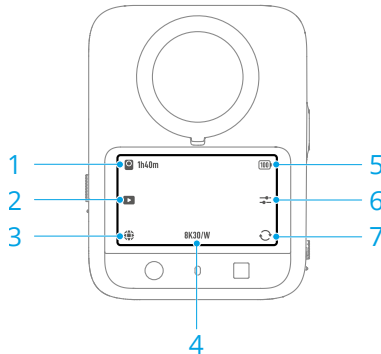
##### 電源オフ時

- \* 機能ボタンでスナップショットが有効になっていることを確認してください。そのためには、コントロールセンターに入り、**スナップショット**をタップします。**機能ボタン**までスクロールし、スイッチをオンにします。次に、使用するモードを設定できます。

1 回押し：電源を入れて録画を開始します（スナップショット）。シャッター/録画ボタンを一度押しすると、録画を停止します。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。

## 3.2 タッチスクリーンの操作

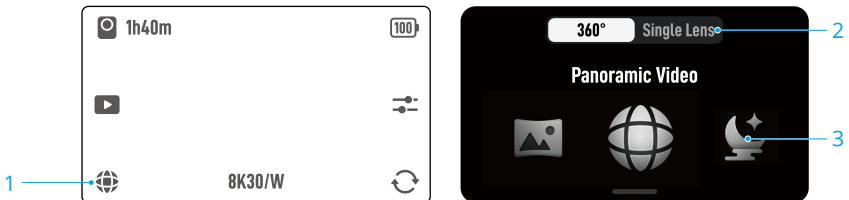
カメラの電源が入ると、タッチ画面にライブビューが表示されます。



1. ストレージ容量／残り録画時間
2. 再生
3. 撮影モード
4. 撮影仕様
5. バッテリー残量
6. 画像／音声パラメーター
7. ビュー／レンズ切り替え

再生中に、画面の右端から左にスワイプしてライブビューに戻ります。

## 撮影モードの設定



1. アイコンをタップしてモード切り替えページに入ります。
2. レンズモードを選択するには以下をタップします。
  - **360°**：両方のレンズを使用して撮影するパノラマモード。

- **シングルレンズ**：1つのレンズを使用して撮影します。
3. スワイプして撮影モードを選択します。レンズモードによってサポートする撮影モードは異なります。

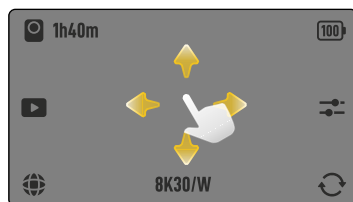
選択した撮影モードをタップするか、画面の下から上にスワイプしてライブビューに戻ります。

## ビュー/レンズ切り替え

### 360°モードで

画面の中央をスライドしてビューを調整します。📍をタップして、ビューを中心に戻します。🔄をタップして、前方と後方のビューを切り替えます。

- 💡 • これらの操作は画面に表示される内容のみを変更し、記録されたスフィア動画には影響しません。
- これらの操作のサポートは撮影モードによって異なります。実際のインターフェースを参照してください。



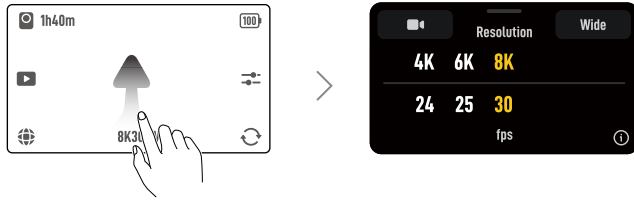
### シングルレンズモードで

🔄をタップして、前方と後方のレンズを切り替えます。

## 撮影パラメーターの設定

撮影モードにより、設定パラメーターは異なります。実際のインターフェースを参照してください。

1. 画面下側から上へスワイプすると、各撮影モードのパラメーターを設定できます。



- 📖
  - 📷
    - **プリ録画**：有効にすると、カメラは設定した時間内に映像をプリ録画します。シャッター／録画ボタンを押すと、カメラは、シャッター／録画ボタンを押す前の最新の録画済み映像を保存して録画を継続し、その映像を全体の映像として保存します。この機能により、シャッター／録画ボタンを押す前に映像を保存し、ストレージスペースを取りすぎないようにして、ハイライトをキャプチャするのに役立ちます。
      - **ループ撮影**：有効にした場合、カメラは選択した時間が経過すると、古い映像を新しい映像で上書きして録画します。この機能により、カメラはストレージスペースを節約することができ、予期しないハイライトを撮影するために待機しているシーン（運転中など）での使用に適しています。
      - **RS** をタップして、EIS（映像ブレ補正）モードを設定します。
        - **オフ**：視野角を最大にして動画を撮影します。
        - **RockSteady**：映像のブレを補正しながら、ダイナミックな動きを維持します。一人称視点の撮影に適しています。
        - **HorizonSteady**：360°以内のロール軸の揺れを排除します。激しい動きやターンを伴うシーンでも、画像が水平で安定するようにします。

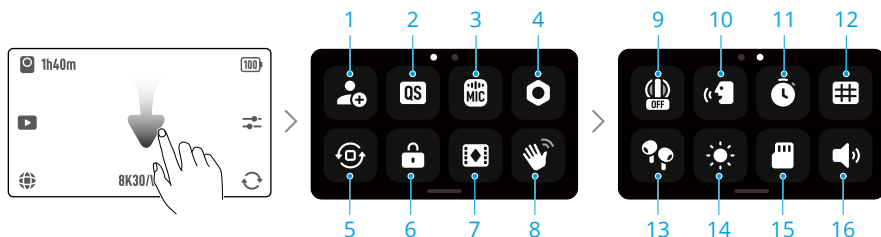
パラメータを設定したら、画面上部から下にスワイプしてライブビューに戻ります。

2. 📷 **ライブビュー**で、をタップすると、映像・音声パラメーターを調整できます。**PRO** をタップすると、アイコンが黄色くなり、プロ向けのパラメーターを調整できるようになります。

📖 **[D-Log M]**は、後編集時にプロ仕様のカラーグレーディングに対応するよう設計されています。ハイコントラストまたはマルチカラー（ガーデン、フィールドなど）のシナリオでは、ダイナミックレンジを拡大して、撮影後のカラー調整の幅を広げることができます。**D-Log M**を選択した場合、色回復（カラーリカバリー）をオンにして、ライブビューでカラー効果をプレビューすることができます。

## コントロールセンター

画面上部から下にスワイプすると、操作センターに入ります。操作センターで左右にスワイプして、すべてのオプションを表示します。画面の下部から上にスワイプすると、ライブビューに戻ります。



### 1. カスタムモード

現在の撮影設定をカスタムモードとして保存し、シーンを選択します。次回は、タッチ画面またはクイックスイッチボタンを使用してこのモードに切り替えることができます。

### 2. クイックスイッチ


クイックスイッチボタンを押したときに選択できる撮影モードを選択し、音声プロンプト機能を有効／無効にします。

- ☀️ 音声プロンプトを有効にすると、クイックスイッチボタンを押すたびにカメラが現在の撮影モードを知らせます。カメラをヘルメットや直接見ることができない場所に取り付けた際、音声プロンプトを使用して、必要なモードへ正確に切り替えることができます。

### 3. ワイヤレスマイク

カメラは2台のDJI ワイヤレスマイクトランスミッターに同時に接続できます。公式ウェブサイトアクセスして、サポートされているモデルを確認してください。

画面に表示される指示に従って、リンクしてください。リンクが完了すると、トランスミッターを使用してカメラを制御し、録画を開始し、音声をトランスミッターでキャプチャできるようになります。

- ☀️
  - 詳細については、DJI のウェブサイトや、マイク製品のユーザーマニュアルを参照してください。
  - 操作センターに入り、 をタップして**内蔵マイクでの音声バックアップ**を有効にします。有効にすると、カメラの内蔵マイクは動画撮影中に音声も録音し、音声を別の.wav ファイルとして保存します。
  - トランスミッターがカメラにリンクされている場合、ワイヤレスマイク設定をタップして、トランスミッターの音声パラメーターを調整できます。

### 4. 設定



5. 方向ロック
6. 画面ロック
7. 編集アシスタント

パノラマ動画モードでのみ利用可能です。録画前に編集アシスタントが有効になっている場合、公式ソフトウェアで動画を編集する際にワンクリックでセルフィービューに切り替えることができます。

8. ジェスチャー操作

有効にすると、手のひらジェスチャーで写真を撮ったり、録画を開始／停止したりできます。

9. レンズ保護モード

カメラを Osmo 360 透明レンズプロテクター（別売）と一緒に使用する場合、撮影前に**透明レンズプロテクター**をタップしてください。

10. 音声操作

[音声操作] を有効にすると、音声コマンドでカメラを操作できます。

11. タイマー撮影

12. グリッド

13. ワイヤレスイヤホン


イヤホンがペアリング状態であることを確認してください。機器名がリストに表示されたら、タップして接続してください。接続されると、カメラはイヤホンでキャプチャされた音声を使用して動画を録画します。

14. 明るさ

15. ストレージ

カメラのストレージ情報を確認してください。microSD カードが挿入されていると、すべての画像・動画を microSD カードに保存できます。内蔵ストレージまたは microSD カードをフォーマットするには**ストレージ**をタップします。

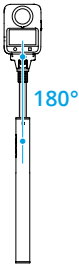
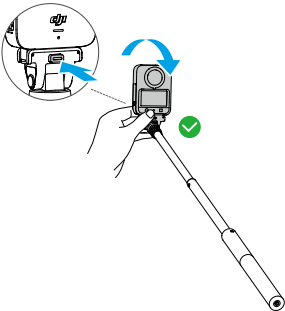
---

 フォーマットを行うと、すべてのデータが永久に消去されます。フォーマットする前に、必要なデータをすべて、必ずバックアップしてください。

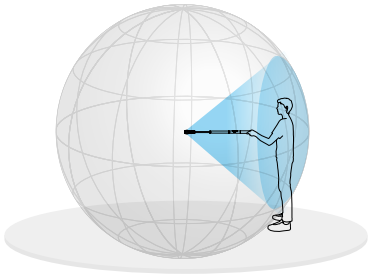
---

16. 音量

### 3.3 セルフィースティックの使用

レンズモード	セルフィースティックの位置	効果
360° (パノラマモード)		セルフィースティックは フレームに見えません。
シングルレンズ	 <p>アダプター マウントの背面のボタンを押し続け、終了位置まで回転させてからボタンを放します。</p>	セルフィースティックは フレーム内に残ります。 セルフィー画像は最適な 角度で撮影され、鮮明な焦 点で表示されます。

360° > セルフィーモードでは、カメラはセルフィースティック側のエリアのみを記録します。公式編集ソフトウェアを使用して、インビジブルセルフィースティック効果付きの広角動画を作成できます。



## 3.4 エクスポートと共有

### ファイル転送

#### モバイル端末へのファイル転送

1. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。DJI Mimo を起動し、ホーム画面のカメラアイコンをタップします。
2. カメラを DJI Mimo に接続し、[再生] アイコンをタップして、写真と動画をプレビューします。⬇️ アイコンをタップすると、写真や動画をダウンロードします。

#### ファイルをパソコンに転送

カメラの電源を入れ、付属のケーブルでパソコンに接続します。パソコンに接続すると、ポップアップが表示されます。ファイル転送：USB をタップすると、カメラからパソコンにファイルをダウンロードできます。ファイルの転送中は、カメラで写真を撮影したり、動画を録画したりできません。

---

💡 ファイル転送が中断された場合には、デバイスをパソコンに再接続してください。

---

### パノラマ動画の編集

カメラで撮影したパノラマ動画は、通常のビデオとして共有する前に編集する必要があります。スマートフォンで DJI Mimo を使用してクイック編集を行うか、パソコンで専用のソフトウェアを使用して高度な編集を行います。

詳細については、チュートリアルビデオをご覧ください。

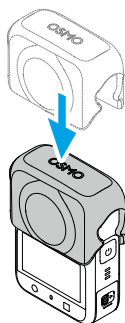


<https://www.dji.com/360/video>

## 3.5 使用上の注意

### レンズ

1. 表面を清潔に保ち、傷を防いで、画質に影響を与えないようにしてください。
2. 撮影後、ゴム製のレンズ プロテクターをカメラに取り付けます。プロテクターの内側を清潔に保ち、汚れや傷を防ぎます。



## バッテリー

1. 正規品以外のバッテリーを使用しないでください。公式以外のバッテリーを使用したことに起因する損害に対して、DJI は一切責任を負いません。
2. バッテリーを良好な状態に保つために、3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に放電したあと完全に充電するようにしてください。
3. バッテリー電圧が低すぎると、バッテリーは低電力状態になります。低電力モードを終了するには、バッテリーを充電してください。
4. バッテリーを完全に放電した状態で長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、修理不能な損傷が発生する恐れがあります。
5. バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、40~65% まで放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。

## 水中での使用

- 
- ⚠ • カメラユニットのみの場合、水深最大 10 m まで使用できます。
- 水中でパノラマ動画を撮影すると、空気中とは異なる光の屈折の影響で、画像が正しくスティッチされないことがあります。水中での撮影には、カメラ単体での使用は推奨されません。
- 

1. バッテリーを挿入する前に、バッテリーとバッテリー収納部が乾いた清潔な状態であることを確認してください。バッテリーの接続性や防水性に影響を及ぼす恐れがあります。バッテリーを挿入した後、バッテリー収納部カバーがしっかりと閉じられていることを確認してください。カバーが適切に固定された後は、赤いマークが見えなくなることに注意してください。
2. 本製品を持って、勢いよく水に飛び込むことは避けてください。衝撃で漏水する恐れがあります。

3. 水中で使用した後は、浄水でカメラを洗ってください。次回使用するまで、自然乾燥させてください。柔らかく乾いた布でカメラの表面を拭きます。
4. ヘアドライヤーの熱風でカメラを乾かさないでください。マイクの薄膜や内蔵通気性薄膜が破裂し、カメラの防水性が失われる恐れがあります。
5. カメラを水中で使用した後、バッテリーを交換する必要がある場合には、バッテリー収納部の隙間に水が入らないように、バッテリー収納部カバーを下向きに開けてください。バッテリー収納部の隙間の水滴を拭き取り、赤い防水ゴムリングを清掃して異物が残らないようにします。清掃をしないと、その後の使用時、防水性能に影響します。

## クリーニング

1. アルコールまたは洗淨液を含む液体をカメラに使用しないでください。
2. マイクの穴や放熱スロット、カメラのその他の部分が砂などの異物でふさがれた場合は、カメラを密閉・防水状態にして、真水で洗い流してください。
3. レンズは、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアブロー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。
4. 乾いた清潔な布で、バッテリーとバッテリー収納部を掃除してください。
5. カメラのクイックリリース用取り付け穴にほこりや砂が付着していないことを確認し、クイックリリース式アダプターマウントを取り付けてください。

## 4 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/360/specs>



連絡先

DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。  
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/360/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（[DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com) 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI と OSMO は、DJI の商標です。

Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.